

大正十一年六月四日

藤永田造船所主

今社ハ回答ノ各項ニ付詳細ナル説明ヲ加ヘ今社ノ意見ヲ存スル
所ヲ懇切論スル筈ナリトモ既ニ職工等ノ工場外ニ集團シ
際ニ亘リ不秩序ノ状態ニ在ルヲ以テ今社ノ之ヲ徹底的
解決ハ到底不可能トシ工場内各所ニ回答トモ未
職工ニ周知ノ方法ヲ執リタリ
換束ヲ免シタル未職工數名
ハ兩工場ニ帰来今見解未
未女員ヲ本社ニ派遣シタルモカ
一実行未女員同僚
換束ノ
俱レアリトシ中途ヨリ引返シタリ

四日午後六時迄船房協組各横井清行主催之下ニ大条市
民殿、房協同題演説會ヲ開催、今場狹隘ノ爲メ約七百名
ヲ容レタルニ紛平ハ群衆ハ場外街路ニ溢、群衆ノ全部ハ強シ
ト該組委員ニシテ実行未女員山崎富七ノ交渉願未報告
次ニ東忠禮外四名演説アリ閉會後僅ハ二一時、閉會
ヲ告ケ労働歌ヲ其唱シテ解散セリ
(六月四日)

四日市民殿ニ於ケル職工側幹部行合ノ内容ハ團體交渉権ノ
問題ヲ巧ニ拒絶タル今社ノ回答ニ満足セス、アラユル手段ニ訴
ヘ初期ノ目的ヲ達スル爲メ熱烈ナル演説會及示威運動ヲ
取行スルコト並ニ換束セラシタル幹部員ノ解放ヲ迫ルヲ先
決問題トシ概要別記(一)ノ如キ決議ヲ為セリ
五日公休日ナルヲ以テ実行未女員山崎富七其他約五十名ハ朝
来旭便舎本部ニ集合シ協議ヲ爲シ本工場ニ於ケル未女
行委員ヲ遣是セリ之ヨリ先職工側ハ今社ノ回答内各其他